浜松医科大学開学四十周年記念誌

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-12-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 開学四十周年記念誌編集専門委員会 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/2800

第11部

関　係　団　体

1. 浜松医科大学後援会

後援会は，学生の福利厚生，課外活動等に関する事業への援助及び学生に関わる教育・研究活動を後援し，その成果の向上と大学の発展に寄与することを目的として，昭和 50 年 12 月 6 日に設立総会を開催し，名称を「浜松医科大学後援会」と定め，発足した。

後援会の主な事業は，次のとおりである。

①学生の福利厚生についての援助
- 学生への一時貸付金事業

②学生の課外活動についての援助
- サークル（体育会，文化会）の活動に対する援助
- 滋賀医科大学との交流会への援助
- 西日本医科学生総合体育大会への参加に係る分担金等の助成
- 医大祭，新入生歓迎会への助成
- 優秀な成績を収めた学生団体に対する表彰に係る助成

③学生にかかわる教育，研究活動を後援する事業
- 新入生オリエンテーション，臨床前体験学習等への助成
- 医師国家試験対策助成及び看護系国家試験対策助成
- 指導教員グループへの助成
- 卒業記念品の贈呈・国際交流事業についての支援

歴代の会長，副会長は次の表のとおりである。

後援会歴代会長・副会長一覧

年　度	会　長	副会長
平成 17 年度	岩川　武彦	黒田　雄司
平成 18 年度	水頭　光三	黒田　雄司
平成 19 年度	太田　光彦	瀧口　恒紀
平成 20 年度	鈴木　敏弘	山下　晃弘
平成 21 年度	石郷岡　幹雄	萩原　孝英
平成 22 年度	萩原　孝英	山本　直弘
平成 23 年度	酒井　満夫	大林　正尚
平成 24 年度	橋本　守司	今田　昇
平成 25 年度	長澤　正通	竹内　章雄

2. 浜松医科大学同窓会

浜松医科大学同窓会は「会員相互の親睦を図り，会員の福利厚生，学術の発展および母校の発展に尽くす」ことを目的として昭和 55 年医学科第一期生の卒業と同時に発足した。以来，医学科の会員総数は平成 26 年 3 月現在で 4,572 名にのぼる。その内訳は正会員として 3,416 名，大学院博士課程 273 名，学生会員 685 名，準会員 85 名，特別会員 72 名，名誉会員 41 名となっている。会長は，初代三浦克敏（医学科一期卒）から峯田周幸（医学科一期卒），吉田雅行（医学科一期卒），宮嶋裕明（医学科二期卒），鈴木昌文（医学科一期卒），浦野哲盟（医学科二期卒），平成 9 年より第 7 代梅村和夫（医学科五期卒）へと引き継がれている。看護学科は平成 7 年に学科新設および平成 11 年には大学院修士課程看護学専攻科が開設された。当初は一緒に活動していたが，卒業生のニーズにあった活動を行うことが看護学科同窓会の存続に重要であるという意見が多く寄せられ，平成 20 年 4 月から独立して独自の役員を整え活動をしている。

医学科同窓会の活動内容は以下の大きく 4 点に集約される。

１）会務執行；定例総会が毎年 4 月に開催され，活動計画の立案や活動報告，会計報告や予算案の承認，役員，評議員の選出などを行っている。

２）福利厚生事業；平成 8 年度より行われた同窓会学術奨励賞は，平成 26 年度で第 19 回目を迎え第 18 回までの受賞者数は 66 名におよぶ。教育担当副学長，教授および同窓会員から構成される審査委員会により選出されるこの賞は，応募作品のレベルが年々上昇しており現在でも若手研究者の登龍門のひとつになっている。本賞の授与式と記念講演会は大学主催の開学記念行事と合同で開催されている。

３）名簿作成；会員名簿の作成・発行は毎年行われている。個人情報保護法施行により，平成 17 年度会員名簿より現住所を掲載しない形で発行されている。

４）広報活動；①同窓会誌発行，②ホームページ開設，③ニュースレター配布，がある。①毎年 9 月ころ同窓会誌が発行され，前述の学術奨励賞に関する記事，会計報告，事務連絡などを掲載している。また恩師の先生方による寄稿，研修医日誌，学生会員

からの寄稿，開業コーナー，活躍されている先生の TOPICS など内容も幅広くなっている。②平成 12 年 9 月から開設され，同窓会活動の広報や会員間の情報交換に使用されており，一般にも公開されているページと会員専用ページが設定されている。（http://www.hama-med.org/）③平成 12 年 11 月から大学の機関紙であるニュースレターを（年２回発行）会員に配布している。

同窓会事務局は開設より平成８年までを勤めた初代神村幸夫に代わり，平成９年より金永尚美が担当となり，ホームページは赤尾愛子が担当している。（同窓会事務局：電話および FAX：053-435-4724）

平成 22 年４月からは母校も法人化２期目を迎え，浜松医科大学附属病院を含め学内再整備が完了となる。母校の新しいスタートに向けて，今後も母校のために貢献出来るように情報発信や活動を進めて行きたい。

（梅村和夫）

3. 看護学科同窓会

看護学科卒業生および大学院医学系研究科修士課程（看護学専攻）修了生は，浜松医科大学同窓会に会員として加入していた。平成 20 年５月に浜松医科大学同窓会から独立し，看護学科同窓会が発足したため，看護学科卒業生と修士課程修了生は看護学科同窓会へ移行した。「会員相互の親睦を図り，会員の福利厚生，学術の発展及び母校の発展を尽くす」ことを目的として活動している。平成 26 年２月現在，正会員数は 1,227 名にのぼる。内訳は，看護学科 1,032 名，助産学専攻科 56 名，大学院修士課程 139 名である。そのほか，学生会員として看護学科，専攻科および修士課程を合わせて 325 名，特別会員（現職員）９名，特別会員（旧職員）21 名となっている。初代会長は高林智子（学部１期，修士４期）が務め，平成 26 年５月から２代目の山下寛奈（学部２期）が引き継いでいる。

活動内容は主に以下の４点である。

(1) 会務執行；定例総会が毎年５月に開催され，事業計画の立案，会計報告及び予算案の承認，役員や評議員の選出を行っている。

(2) 福利厚生事業；平成 24 年度より総会と同時に活動報告会を開催している。２～３名の卒業生が自身の近況を報告し，情報交換の場となっている。そのほか，医大祭および国際交流事業への寄付，卒業生への記念品贈呈を行っている。

(3) 名簿作成；会員名簿の作成は毎年行っているが，平成 24 年度から会員名簿の冊子体の発行を休止している。

(4) 広報活動；①同窓会誌発行，②ホームページ開設，③ニュースレター配布を行っている。①例年２月ころ同窓会誌を発行し，恩師による寄稿，卒業生や在校生の近況報告，会計報告，事務連絡等を掲載している。②平成 24 年度から独自のホームページを開設し，同窓会活動を載せている。会員専用ページでは同窓会誌や，総会および理事会議事録などが閲覧可能である。（http://www.hamai-kango.jp/）③大学の機関紙「ニュースレター」は大学の出来事を会員に提供する目的で，会員に配布している。

（山下寛奈）

4. 一般財団法人 松仁会

財団法人松仁会は，公益法人として昭和 52 年（1977 年）11 月に静岡県知事の許可を得て設立されたものである。本財団は本年で 37 年目を迎えることとなり平成 26 年４月１日には一般財団法人に移行した。現在までは，大学・病院当局のご指導，ご理解により必要な各種事業を継続的に実施することができた。これらの諸事業は，大学・病院と財団との一体性の観点から一日もゆるがせにできないものであり，一般財団法人となっても引き続き着実に実施していくこととなる。

一般財団法人松仁会は，国立大学法人浜松医科大学（以下「大学」という。）の医学部附属病院（以下「病院」という。）における患者への支援を図るとともに，大学及び病院の運営に関する協力助成を行い，もって地域の医療水準の向上と健全な社会福祉の発展に寄与することを目的としており，この目的を達成するために次の事業を実施していくこととなる。

・患者に対する奨励及び救援
・診療に関する研究への奨励及び助成
・大学及び病院の運営に関する協力助成
・学生に対する助成
・その他この法人の目的を達成するために必要な事業

この事業は，国立大学法人浜松医科大学に対する特定寄附で「実施事業等会計」により処理されることとされている。本財団が一般財団法人へ移行する

ことは，平成 26 年 3 月 31 日現在の本財団法人の純資産を公益目的支出計画（浜松医科大学へ毎年ほぼ決まった金額を寄附し消費していく計画）に基づき実施しなければならないこととなっている。
また，他に管理事業及び公衆電話事業を実施することとなっている。管理事業には，売店・眼鏡店・理容店・職員食堂・一般食堂及び学生食堂の運営，病棟の洗濯機・自動販売機設置等があり，運営を協力会社等に委託しているところである。平成 26 年 4 月 1 日から職員食堂，一般食堂及び学生食堂の運営を一本化し，患者とその家族等，職員・学生等に歓んでいただける食事の提供，経営の健全化，安全衛生対策（食中毒防止対策・異物混入防止対策・日常の衛生管理），職員の研修等に努めるとともに，協力会社等との連携を密にしたサービスの向上を図っていかなければならないと思っている。

（理事長　近藤宣征）

２年前に外来棟全般の改修工事があり，全面的に本財団の営業エリアが変更された。次に各店舗の配置図を示す。

売　店

売店カウンター

売店内書店

眼鏡店・理容店

職員食堂

一般食堂

自動販売機コーナー

学生食堂

5. 白菊会・新天会

本学では毎年秋に２年生の解剖学の実習及び６年生の選択必修科目として臨床解剖学の実習が行われており，これらの実習のため，おおよそ 40 体の御遺体を毎年確保する必要があるが，幸い，近年は，滞りなくこれらの実習を行うことができている。これは，献体いただいた御本人と御遺族の尊い御志と篤志献体団体をはじめとする皆様の多大な御協力と御援助によるものであり，本学は，今後も引き続き皆様の御協力と御理解をいただき，この教育環境の維持に努めて行く。

本学には，献体団体が２つある。学内に事務組織を置く「浜松医科大学白菊会」と外部団体の「新天会」である。

白菊会　医科・歯科大学で行われる正常解剖（解剖学実習）の教材として，自己の死後その遺体を大学へ提供しようとする献体篤志家団体の一つとして，昭和 30 年 9 月 16 日に発足した全国的組織の団体。昭和 49 年 7 月 11 日に白菊会浜松医科大学支部が結成された。その後，白菊会本部が解散し，各大学支部からなる白菊会連合会が形成されたが，平成 18 年度をもって連合会から脱退し，平成 19 年 4 月 1 日から浜松医科大学白菊会として独立して活動している。

平成 26 年 2 月 1 日現在の登録者は 783 人，献体者は 1,208 人である。登録者を地域別に見ると，県東部 132 人，県中部 226 人（うち静岡市 176 人），県西部 298 人（うち浜松市 216 人），県外等 127 人となっている。

新天会　キリスト教の精神に基づき，地上におけ

る最後のご奉仕としてわが身をささげる。それがやがて多くの隣人の病気を治し，生命を救うことになるとの考えのもと，買うことも造ることもできない貴い自分の遺体を医学の教育と進歩のためにささげようとするキリスト教信者及び賛同者による同士の会として，昭和 49 年 11 月 20 日に設立された篤志家団体。事務は聖隷福祉事業団で執り行っている。平成 26 年 2 月 1 日現在の登録者数は 163 人，献体者は 388 人であり，毎年 10 体ほどの献体がある。